

機関番号：64302

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19202011

研究課題名（和文）東アジアにおける文化交流と知的システムの近代的再編成

研究課題名（英文）A Modern Reorganization of Cultural Interaction and Intellectual System in East Asia

研究代表者

鈴木 貞美（SUZUKI SADAMI）

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：60179207

研究成果の概要（和文）：

西欧近代文化を東アジアの伝統文化で受け止めて成立した日本近代の知的システムの特殊性を解明するための基礎資料、および分野・各地域で分散的に行われてきた諸分野の学術史研究文献などを調査整理し、近現代の学術研究を統合し、日本および東アジアの特殊性をふまえ、地球環境問題など「ポスト・ヒューマニズム」とも呼ばれる 21 世紀の課題に応える新しい学術体制づくりを目指す国際共通認識をつくりだすための諸活動を行った。

研究成果の概要（英文）：

The modern Japanese intellectual system came into being through the accommodation of modern Western culture within the scheme of traditional Eastern culture. In order to shed light on the peculiarities of that system, we have investigated, and assembled, basic sources as well as literary documentation on academic history from a variety of different fields in which research was conducted disparately. By merging the outcomes of such modern academic research and by taking into account the special features of Japan and East Asia, we have sought to establish a new academic system able to respond to such 'post humanistic' demands of the 21st century as the global environment. We have also endeavoured to generate a common international perception of problems.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2008年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2009年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2010年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
年度			
総計	21,600,000	6,480,000	28,080,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文化論

キーワード：比較文学、概念、概念編成史、近代的再編、学術システム、価値観

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の学術史研究は、とくに東アジアにおいては、各分野、各地域、分散的に行われていた。特に東アジアにおいては、分野横断的な視野に立って、未解明の領域に光を当てる研究がおこなわれていなかった。西欧においては、たとえば、フランスのミシェル・フーコー、ピエール・ブルデューらが、19～20世紀の知的システムの総体を批判し、またイギリスのケンブリッジ大学では、歴史研究に生活文化の研究を導入して「伝統の発明」論などの、概念の形成に関する論調を生んできた。しかし、それら欧米の理論はそのまま東アジアに適用できるものではなく、東アジアの文化基盤の特殊性を十分にふまえた国際的な、新しい学術編成のための基盤、共同研究のための基盤が、必要となっていた。

2. 研究の目的

今日にいたる学芸の基礎概念の形成過程について、輸入先の近代西欧各文化における価値体系の差異、それを受けとる際に働いた漢字文化圏における各文化の伝統的な概念編成と価値体系の差異、受け入れ時期や伝播、再編の歴史的条件などを、それぞれ勘案し、新概念の創始、流布、定着、再編を総合して考察し、東アジア諸国における学術編成史と、それにはたした日本の近現代の知的システムの役割の解明を行う。より具体的には、1、日本近現代の知的システムの特殊性を解明するための基礎資料、具体的には、学問・教育の全般と諸分野の制度史および学術史研究、とりわけ「宗教」「歴史」「芸術」「法律」「国家」「社会」「経済」「理学」「工学」「医学」などの学術の諸カテゴリーの基礎概念とその相互関係、それらの下位概念の編成と、再編成をうながした価値観の変遷について、先行研究の蓄積、整理を行う。2、国際的、総合的な視野に立つ「知のシステム」の解明のための新たな方法論の構築。3、国際的、総合的な視野に立ち、今後の学術の再編成に向けての具体的な提言に結びつけること。

3. 研究の方法

(1) 国際日本文化研究センター（以下、日文研）において、基礎作業を行う。学問・教育制度史資料、諸分野の学術史研究の先行研究の収集・蓄積、整理を行い、各資料を相互に突き合わせて、批判的に統合する。

(2) 国外の大学、研究機関と共催で国際ワークショップを開催する。日文研において、共同研究を行う。

(3) 国内外における、研究者（個人）のネットワークづくりを推進・強化する。従来の語彙史研究の成果をふまえつつ、それを概念編成、学術ジャンルの編成全体の変遷として

とらえなおし、価値の変遷とからめて研究するという当研究の重要性と研究方法を、国際会議や講演会活動や直接の面会を通じて、内外に広く発信する。

(4) 東アジア国際共同研究のネットワークづくりの方法として、連携研究のできるデータベースをつくる。各分野の研究者が、連携した研究を進めうる場と情報の共有のための装置をつくる。

4. 研究成果

(1) 日本近現代の知的システムの特殊性を解明するための、基礎資料、諸分野の学術史研究、そして学術の基礎概念に関する先行研究の国内外にわたって調査・収集を行い整理し、共同研究の場に有効に資するよう分類した。

(2) 日文研のホームページに国内外から検索し、また入力もできるDB「日本語概念・語彙研究文献データベース」を設立し、随時、共同研究のために最も有効な方法・制度がいかなるものであるかを試験的に運用し、バージョンアップにつとめた。数年にわたる試行錯誤の結果、最終年度までに改善された主なポイントとしては、①国内外の研究者が各々で入力していく情報の使用記号や方法を統一。DB検索機能の改善をはかった。②データを語彙のみならず、概念に関する文献資料に拡大して、資料面を増強。③語彙史や概念史に関する文献・論文に関する書誌情報のみならず、文献内容を日文研来所者に限って公開するシステムを作成した。（このDBの公開は別予算で2011年度予定）

(3) 研究代表者および研究分担者は、外国人研究員や海外の研究者と連携した共同研究を国際的に積極的に展開し、さまざまな当研究に関する国際シンポジウムや共同研究会議、講演会を開催した。中国、韓国を中心に、西欧を含めて世界各地において講演し、東アジア近現代の概念編成史の成果報告を行い、国際的波及につとめた。本研究の意義と共同研究の重要性を訴え、各地で確実な反応を得た。

(4) 研究代表者および研究分担者は、本科学研究費における成果報告書『近代東アジアにおける鍵概念—民族・国家・民族主義』をはじめとして、当研究に関する書籍を複数刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

①鈴木貞美、「和辻哲郎の哲学観、生命観、芸術観—『ニイチェ研究』をめぐって」『日本研究』、査読無、38 集、2008、314-348

②鈴木貞美、「How would you define Japanese Modernism?(Interview by Raquel Samara)」、『Dialogia 2090 in Portuguese』、2009、5-28

③稲賀繁美、「知の再定義に向けて：理論的還元の限界と、全体論的把握への誘惑のはざままで」『近くの現場：四季の綻び』Vol. 2、査読無、醍醐書房、2009、35-37

④鈴木貞美、「明治期日本における「自由・平等」—福沢諭吉、西周、加藤弘之をめぐって」『日本研究』、査読無、40 集、2009、377-392

⑤新井菜穂子、「伝から電へ—近代通信の用語定着の一断面」『情報通信学会誌』vol26, no4、査読無、2009 年 3 月、84-87

⑥鈴木貞美、魏大海訳、「明治期日本啓蒙思想中的《自由・平等》—以福沢諭吉、西周、加藤弘之为中心」復旦外国語文学論集、査読無、2009 年 6 月、87-94

⑦稲賀繁美、「藝術という名の『枠組み』を問い直す—鼓常良 Rahmenlosigkeit 再考」『あいだ』、査読無、165 号、2009 年 10 月、34~40

⑧鈴木貞美、「学芸概念の近代的再編をめぐって—『文学』を中心に」『東亞地区日語教育日本学研究前沿文存』、華東理工大学出版社、査読無、2009、2-16

⑨フレデリック・クレインス「ポンペの日本史観」『日本研究』、査読有、第 40 号、2009 年 11 月、319-356

⑩鈴木貞美、小特集「東アジアにおける知的システムの近代的再編成(三)」『日本研究』、査読無、43 集、2011、141-142

⑪鈴木貞美、「日本モダニズム文藝史のために—新たな構想」、『日本研究』、査読無、43 集、2011、237-260

[学会発表] (計 32 件)

①鈴木貞美、東アジアにおける学芸概念と概念編成の歴史—その研究法、「文化の往還」シンポジウム「東アジアにおける近代諸概念の生成と展開」2007 年 10 月 16 日、北京大学

②鈴木貞美、基調報告「日本近現代文化研究の三大戦略—概念編成史および帝国主義の文化史研究」、中国日本文学会全国大会、2008 年 8 月 19 日、大連外国語学院

③鈴木貞美、「“Liberty” and “Equality” in Meiji Japan」、政治社会概念史研究・国際シンポジウム、2008 年 9 月 18 日、ソウル大学

④劉建輝、「近代東アジア文学史の再編成」国際学術検討会、2008 年 10 月 16 日、山東大学(中国)

⑤劉建輝、「近代東亜的『帝国』話語与『滿州』文学」国際学術検討会、2008 年 10 月 31 日、台湾中央研究院(台湾)

⑥鈴木貞美、集中講義「日本における『文学』と『藝術』概念の近代的再編成」、広東外国語外国貿易大学日本語日本文学科、2008 年 12 月 9~11 日、広東外国語外国貿易大学

⑦鈴木貞美、「日本語で『文学』は何を意味するか—概念編成史研究の必要性」日本語教育シンポジウム、2008 年 12 月 13 日、広東外国語外国貿易大学

⑧鈴木貞美、「明治期啓蒙思想における『自由・平等』概念の再編成」単独講演、2008 年 12 月 19 日、復旦大学日語大学院

⑨劉建輝、「上海の衝撃—幕末維新时期における漢訳洋書の伝来とその意味」国際学術検討会、2009 年 3 月 5 日、台湾中央研究院(台湾)

⑩鈴木貞美、「近現代日本文化史再編のために—『文学』『藝術』概念を中心に」単独講演、2009 年 3 月 14 日、名古屋大学日本近現代文化研究センター

⑪新井菜穂子、「「電気」の受容について」、国際シンポジウム「漢字文化圏近代語言文化研究」、2009 年 3 月 27~28 日、天津外国語学院

⑫劉建輝、集中講義「近代東アジア文学史の再構築 I」北京日本学研究中心、2009 年 4 月 13~24 日、北京外国語大学

⑬劉建輝、「日中二百年一ちえ合う近代」日本学総合講座、2009年4月16日、北京大学

⑭鈴木貞美、「概念編成史研究の意義と方法」、単独講演、2009年5月8日、成均館大学(韓国)

⑮フレデリック・クレインス、「十八世紀における西洋生理学の受容」、共同研究会「十八世紀日本の文化状況と国際環境」、2009年6月19日、日文研

⑯劉建輝、集中講義「近代東アジア文学史の再構築Ⅱ」北京日本学研究中心、2009年6月29~7月4日、北京外国語大学

⑰稲賀繁美、「東アジア文化研究へのあらたな展望」、単独講演、2009年8月6日、延辺大学外国語学院(中国)

⑱鈴木貞美、基調講演『日本文学』の成立と日本の人文学、三つの特徴」、中日韓朝文学研究シンポジウム、2009年8月23日、延辺大学(中国)

⑲鈴木貞美、「日本における「人文学」の特質」、単独講演、2009年8月20日、中国社会科学院日本研究所

⑳鈴木貞美、「日本語で『近代』とは何か」、単独講演、2009年8月25日、中国社会科学院外国文学研究所(北京)

㉑劉建輝、「日中二百年一ちえ合う近代」第九回哲学カフェ、2009年9月23日、モトコータウン(神戸)

㉒鈴木貞美、「アジア近代における概念の再編成について」、講演・概念史からみる東アジア、2009年9月25日、翰林科学院(韓国)

㉓鈴木貞美、「日本における民謡概念をめぐる」、国際シンポジウム「近代東アジアにおける鍵概念—民族、国家、民族主義」、2009年11月25日、中山大学(広州)

㉔鈴木貞美、「東アジアにおける人文学の特殊性を考える」、「東アジアにおけるトランスナショナル人文学の可能性」日文研日韓シンポジウム、2011年7月17日、国際日本文化研究センター(日文研)

㉕鈴木貞美、「東アジアにおける人文科学の特殊性と概念編成史研究の現段階」、単独講義、2010年7月30日、広州外国語大学(中国)

㉖鈴木貞美、「日本近現代の学問体系の特殊性をめぐる」、単独講義、2010年8月17日、ハルビン理工学部

㉗鈴木貞美、「東アジアにおける人文科学の特殊性と概念編成史研究」、単独講義、2010年9月22日、南京師範大学(中国)

㉘鈴木貞美、「第三回大東亜文学者大会(南京)をめぐる」「南京から新しい学術交流の波を」国際シンポジウム、2010年9月22日、南京大学(中国)

㉙伊藤貴之、「東洋学近代日本における中国学・東洋学の成立と概念編成」、共同研究会「東アジア近現代における知的交流—概念編成を中心に」、2010年10月16日、日文研

㉚鈴木貞美、「概念編成史研究の必要性和有効性—中国の若手研究者のために」、単独講演、2010年10月26日、精華大学(北京)

㉛鈴木貞美、「東アジアにおける概念編成史—その研究の現在」、単独講演、2010年11月4日、ハイデルベルク大学(ドイツ)

㉜鈴木貞美、「日本近代文学史—再編成のための根本問題」単独講演、2010年12月13日、東京大学本郷キャンパス

〔図書〕(計8件)

①鈴木貞美、他、思文閣出版、『関西モダニズム再考』、2007、573

②鈴木貞美、劉輝建、他、日文研、『東アジアにおける知的システムの近代的再編諸をめぐる—北京大学シンポジウム2007より』、2008、229

③鈴木貞美、中央公論新社、『日本人の生命観—神、恋、倫理』、2008、252

④鈴木貞美、作品社、『「日本文学」の成立』、2009、508

⑤小松和彦、他、せりか書房、『妖怪文化研究の最前線』2009、284

⑥鈴木貞美、集英社新書、『自由の壁』、2009、218

⑦磯前順一、他、ペリカン社、『安丸思想史への対論—文明化・民衆・両義性』、2010、374

⑧鈴木貞美, 劉建輝, 他、日文研、『近代東アジアにおける鍵概念—民族、国家、民族主義—』、2011、186

[その他]

ホームページ等

<http://gainen.nichibun.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 貞美 (SUZUKI SADAMI)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：60179207

(2) 研究分担者

小松 和彦 (KOMATSU KAZUHIKO)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：90111781

稲賀繁美 (INAGA SHIGEMI)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：40203195

劉建輝 (RYU KENKI)

国際日本文化研究センター・研究部・准教授

研究者番号：00321620

Frederic CRYNS (FREDERIC CRYNS)

国際日本文化研究センター・研究部・准教授

研究者番号：90370139

(H21→連携研究者)

磯前 順一 (ISOMAE JUNICHI)

国際日本文化研究センター・研究部・准教授

研究者番号：60232378

伊東 貴之 (ITO TAKAYUKI)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：20251499

(3) 連携研究者

新井 菜穂子 (ARAI NAHOKO)

元国際日本文化研究センター准教授

研究者番号：30442536